

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 037	提案機関名 農業技術センター 足柄地区事務所
要望問題名 タマネギ品種間における抽台率の違いの検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 小田原市下中地域(栽培面積11ha 収穫量500t)のタマネギ栽培では早生から晩生までの数品種を9月下旬から播種しているが、最近特に早生種において抽台率が高くなってきており、良品出荷の割合が著しく低下している。 タマネギの花芽分化については定植時の苗のステージや低温量(低温の程度及び遭遇日数)が主要因と考えられているが品種間の差異も確認されている。 抽台を回避するための手段として、低温量は不可抗力であるが定植時の苗のステージについては播種日の後退や施肥量で調整できる。このためには、品種毎の苗のステージと抽台率との関係を明らかにする必要がある。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	野菜作物研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	タマネギの抽苔は定植時の苗齢が深く関係しており、苗が大きいほど花芽形成に必要な低温遭遇日数は短くなり、低温遭遇時に苗の直径が 5mm 以下では花芽形成をしないとされています。しかし、一方で細すぎる苗では収量性が低くなります。そのため、播種期が早く、苗の大きさが一定以上であると抽苔が多くなります。 小田原でよく栽培されているソニックは、県内では9月中旬を中心に播種されています。当所の試験成績(平成10年度試験研究成績書)では平成10年9月12日まき、11月25日定植で、ソニックの抽台率が1.2%という結果があります。しかしながら、県内でも小田原と北相地区では播種適期が異なっている状況で、小田原での適切な情報を得るためには、産地での播種期の検討及び定植時期の苗の大きさの確認が必要です。現地での調査する際には調査協力致します。		
解決予定年限	① <input type="checkbox"/> 年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			